

Vol.9 2019新春号

Reborn

【特集】平成から未来へ

Take Free

ご自由に
お持ちください

Contents

新時代の益城病院の展望	1
【特集】平成から未来へ	2
平成最後の秋冬イベント 色々ありました！	6
職場インフォメーション	7
研修と院内勉強会	8
職員往来／Off Time／病院情報	9

益城病院 基本理念

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し
最善のプロフェッショナルサービスを提供し、
精神科医療の責任ある担い手として、地域の医療・福祉・文化に貢献します。

五つの 誓い

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。

患者さんの 権利と義務

1. すべての個人情報を守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます。
5. いかなる場合も人格的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

新時代の益城病院の展望

～昭和から平成そして新元号へ～

理事長 犬飼 邦明

平成最後の年が幕を開けました。5月には元号が改まることになっています。「明治は遠くなりけり」とは昭和の後半によく耳にした言葉ですが、やがて「昭和は遠く…」と言われることになるのでしょうか。

益城病院の跡を継いだのが平成3年のこと、まだまだ昭和の佇まいがあちこちに残っており、建物の造りも昭和50年代そのものでした。保護室のコンクリートむき出しの雪隠、温泉地の大広間のような病室、「精神病院は何を食べさせても患者にはわからんからいいですね」と、耳を疑うような当時の民生委員の言葉。40歳の新米院長がそういう環境の中に放り込まれたからこそ、「これまでとは違った病院を作ってやろう」という意地がかきたてられたのだと思います。

モデルとなる精神科病院はなく、自分で編み出すしかありませんでした。それまでの治療者目線が利用者目線に変わっていき、まずは病院給食と居住環境の改善を、そして偏見や誤解の払拭を目指しました。基本理念「益城病院五つの誓い」は旧来の職員へのメッセージであり、舵取りをする自身への指針でもありました。設計段階でも怖いもの知らずの要求を投げかけ、理想の実現に20年間で20億円の投資を行いました。

65歳になり「もうよかろう」と歩みを止めようとしていた矢先の平成28年4月、熊本地震に襲われました。日和（ひよ）ろうとした自分への天罰なのでしょうか、また初心に戻るはめになってしまいました。「益城病院将来ビジョン」「復興計画PLAN2020」とは、内部の者にしか通じない、とってつけたようなお題目ですが、平成から新元号に移る時代の幕開け、人が集まり、期待が集まり、注目を浴びるなか、「もうよかろう」ではなく、私たちに一体何ができるか、何をなすべきかが問われているのではないのでしょうか。

新病院が目指すものは、「疾病の多様化に対応できる治療構造体の構築」です。公益的医療としては、へき地診療、精神科救急に加え、精神科災害時対応を目指します。入院機能としては、ユニット化した急性期、回復期、重症者病棟において、個別少人数対応を可能にします。外来・デイケアと在宅診療、地域生活・就労支援などの障害者福祉、認知症にも対応できる介護・高齢者福祉事業などの連携を深め、限られた人材、持てる資源の有効活用を図ろうというものです。熊本地震からの復興に加え、これまでやりたくてもできなかったことが実現できれば、新時代の精神科医療に一石を投じることになるかもしれません。

「劫初より 造り営む殿堂に われも黄金の釘一つ打つ」（与謝野晶子）

地域との関わりを 振り返る

診療部副部長 福島 郁雄

益城病院は、もうすぐ創立70周年を迎えます。これまで多くの先輩職員の方々が地域の中で色々な診療活動を行ってきた礎として、『益城病院五つの誓い』を立てました。その中に、「ここを病む人々が地域で安心して暮らせる環境作りに努めます」とあります。ソーシャルワーカーの私にとって、とても大切にしている誓いです。

本年5月に新しい病院が益城町馬水の地に竣工します。これまでの地域との関わりを振り返ってみたいと思います。

当院では、1965年頃から病院敷地内に住居を建設し、退院しても自宅に帰ることが困難な方に提供を開始したと聞いています。数名の方が生活し、農家の手伝いや院内の営繕、調理場、清掃などの仕事をし、収入を得る生活をしていました。その後、退院患者さんが多くなったため、使用しなくなった職員寮を手始めに一軒家を購入したり、グループホームを建設するなど、その利用者数は50数名に及びました。それと並行して近隣住民からの声を聞き、患者さんとのトラブルを回避する活動として、精神保健福祉士が中心となって夜間訪問を開始しました。訪問先では、「時々、大きな声で独り言を言っているから不安」「病院から来てくれるから安心」など様々なご意見やご支援をいただきました。現在は訪問看護ステーションが開設され、引き続き訪問看護を行っています。

長年の恒例行事に、夏祭り・秋祭りがあります。御輿を作って惣領神社へ奉納し、近隣を担いで廻り、地域の方々から喜んでもらったのも懐かしい思い出です。祭りの開催前には、必ず案内状を持参して近隣へ訪問挨拶を



↑1992年旧事務所にて（筆者は中央）

しています。その甲斐あって、毎年来場者は増え、次世代を担う多くの子ども達が来てくれることを、とても嬉しく思っています。

1999年1月に当院は熊本県から老人性認知症センターの指定を受け、認知症の専門医療相談、鑑別診断及び治療介護方針の提案、関係機関向けの講演会、認知症に対する啓蒙などの活動を行ってきました。時には地域の研修会場や地域の公民館にて出前研修会を開催してきました。現在では、熊本県拠点型認知症疾患医療センターとして事業を継続しています。

他にも地域に向けた取り組みとして、院内での美術館、訪問診療、訪問看護、認知症カフェ、熊本地震被災に関する支援活動などを行っています。新しい地に移っても、患者さんやご家族、地域の皆様からのご支援を頂きながら診療・福祉・介護などの活動をさらに高め、信頼いただけるよう取り組んで参りたいと思います。



←1996年夏祭りで手作り御輿を職員とその子どもが担ぐ様子

→2018年3月
認知症疾患センター
事例検討会の様子



出会いとつながりを 大切にしながら

法人理事 田中 洋子

当院には、創設当時から「患者さんを大事にする」職場風土があります。昭和の時代においては精神科の患者さんは特別視され、退院が決まると、近所から「なぜ退院させるのか、誰が責任を取るのか」という苦情が頻繁にありましたが、それに対する啓蒙活動として家族会を開き、町村福祉課や保健所・警察署・民生委員会・地域老人会など向けの研修会を行ってきました。国際障害者年には、患者さんの笑顔を地域の方々に見ていただくために町の体育祭や商工会主催の「造りもん大会」にも参加したりして、「怖い人たちではない」という認識の普及に努め、病院を訪れる方々を快く迎えました。その甲斐あって、「緑の多い静かな病院」「おもてなしの精神を発揮する病院」としての定評を得ることができました。また、初代院長は患者さんに優しく職員には厳しい方でしたが、仕事を離れると職員思いの方でもありました。

1995年、現理事長の強い思いから新病院が完成し、“入院から在宅へ”の取り組みはさらに強化されました。「家族を入院させた病院」「働くことを誇りに思う病院」のコンセプトと、緑と花に溢れた開放的な環境のもと、診療における取り組みも多種多様に



↑2002年、職員も参加して開かれた患者さんの誕生日会

なっています。さらに形を変えながら在宅医療の推進は続いており、訪問看護や訪問診療、僻地医療、認知症カフェなど幅広い活動にも取り組んでいます。また、他の病院と少々違うユニークなところとして、病院全体に文化的な要素がふんだんにあることが挙げられ、その象徴として犬飼記念美術館「こころと心のミュージアム」があります。県東部には美術館がなく、理事長・会長の提案により地域交流が実現し、「文化のふれあい」が広がりました。10年以上続く美術館にはファンも多く、展示を楽しんでもらっています。

益城病院は創立から69年目を迎えますが、私たちは今も「益城イズム」の精神を大切に持ち続けています。熊本地震は災禍と苛酷な未来を残しましたが、全国の病院・施設・企業などからの思ってもみない大きなご支援、ボランティアさんの温かい励ましがあり、広域的な繋がりも生まれました。5月には新病院へ移転しますが、この大きなご縁を大切に、さらに私たち職員は羽ばたいていきます。



↑1960年代、旧病院の入口



↑1994年、建築中の現病院

電子カルテ運用から16年、 移行期を振り返る

副看護部長 小幡 祐子

当院が全面的に電子カルテに移行したのが2004年4月。それから16年が経過しました。紙カルテ運用時代は、一定の保管場所に取りに行かないと情報が得られず、多職種による情報共有に時間を要する状況でした。また年々増加する膨大なカルテなど、資料を保管するスペースの確保も課題でした。電子カルテ導入当初は、検査指示箋などは紙が主流で、「誰がどのように指示を確認し、誰が実施するのか」といった業務の流れにも、細部に渡るやり取りにも注意が必要となり、運用面で紆余曲折がありました。そのため、紙に代わる電子化には心配が尽きず、長い準備期間を要しましたが、今では、一元化による多職種間の情報共有により、業務の改善や患者サービスの向上に繋がっています。また、診療録・看護記録・体温表・訪問看護記録・作業療法記録等々さまざまな記録が電子化されたことでペーパーレスに繋がり、一部を除いてスペース問題はある程度改善できました。その後、徐々に現場ニーズに合わせたバージョンアップが行われ、業務負担の改善にも役立っています。

16年が経過した今、古い紙カルテを見ると、そこには当時の看護実践の足跡が刻まれ、時間が止まったように懐かしく当時の様子が

よみがえってきます。看護記録を見ても、各勤務帯によってペンの色が違っていたり、個性のある様々な文字があり、職員と患者間のやり取りなど、電子カルテにはない文字の温もりがあります。サイズもB5判からA4判へと変化し、その歴史には感慨深いものがあります。

電子化されたカルテやその他のデジタル情報ツールは、瞬時にどこからでも情報を得ることができ、記録の質の向上、報告の迅速化といった便利な機能やたくさんのメリットをもたらしました。しかし、そんな中、2016年4月に起きた熊本地震では、インフラの破断によりすべての機能が麻痺し、電子カルテも閲覧不能となりました。転院に必要な入院患者さんの情報が出力できず、紙の補助簿(患者情報や各種検査データなどを綴じたファイル)が役に立ちました。転院時には、補助簿を元に診療情報提供書を作成したり、補助簿そのものを転院先に預けるなどの緊急対応ができました。このように、デジタルデータのメリットとデメリットを理解し改善点を探りながら、電子カルテの運用が現在も続けられています。



↑膨大なカルテが詰まったカルテ庫



↑1995年指示受けの様子



↑1994年バインダー型のカルテを用いたカンファレンス

←日勤・準夜・深夜帯で文字色を変えて記録の工夫を行っていた



↓1994年の益城病院

食の喜びを求めて

栄養管理科長 井上 さとみ

1994年、現在の病院建設前に、理事長より「早い・冷たい・まずいという病院給食のイメージを払拭しましょう」という話がありました。確かに、病院に入院すると食事しか楽しみがない…と言う話は聞くものの、当時は病院の夕食時間も早く、今のように保温・保冷の設備もなかったため、冷たくなったお食事を提供するしかありませんでした。

時間をかけ検討してできた食堂「ヴァンティアン」は、おしゃれなレストランのように窓がたくさんあり、真っ白なテーブルとカラフルな椅子が並び、一度に80人が食事できる開放的な空間でした。カウンターでの対面式配膳方法に変わり、保温庫・保冷库・それにウォーマーまで設置されました。その空間を見て、私たち一同はワクワクしましたが患者さんも同じ思いだったようで、髪を整えたり洋服を着替えたりして楽しんで席に着くようになりました。

それから理事長の思いが炸裂!!!「選択メニュー」「誕生会」「バイキング」と次々に提案され、その思いを形にするため必死に駆け回ったことが懐かしい思い出です。ご家族を招待しての誕生食会は、「にぎり寿司」「天ぷら」「フランス料理」と年ごとに趣向を凝



↑食堂ヴァンティアン

※ヴァンティアン…フランス語で21を意味する。
“21世紀に通用する病院”という意味を込めた。

らして行い、評判になりました。ご家族から丁寧なお礼状も届きました。特にバイキングは一番の代表行事食となりましたが、その陰には、並々ならぬ研究と工夫がありました。当時はまだ珍しかったホテルのバイキングを栄養科全員で試食することから始まり、料理を盛る大皿は職員が持ち寄り、ホテルのシェフの指導を受けて調理技術や盛り付けのレベルアップを図り、どこにも負けないと職員一同が自負するまでになりました。

振り返りますと、「食」は空腹を満たすもの、体に栄養を補給するだけのものではなく、何より心を満たしてくれるものだと、23年間の取り組みから実感する毎日です。



↑2004年誕生会食(和食)



←2002年誕生会では
犬飼会長がおもてなし



↑1995年に新調した
ユニフォーム

平成最後の秋冬イベント 色々ありました！

茶会と和菓子の デモンストレーション



診療支援科と栄養科がコラボして、レストラン「ヴァンティアン」で茶会を開催しました。「(有)お菓子のあさい」当主による様々な和菓子作りの実技披露があり、患者さんも手作りを体験し、好みのお菓子を頂く茶会でした。和服姿の職員のおもてなしも初々しく、活発な質問も出て、秋の一日、大勢の患者さんの笑顔が輝いていました。

作業療法室 芳本 陽菜

入院部門の クリスマス会を終えて

平成最後のクリスマス会は、患者さんの記憶に残るよう、好評のカラオケ大会にしようと企画しました。出演する患者さんのなかには着物を着用して美声を披露される方あり、大勢と一緒に歌うなど盛り上がりました。また、職員有志によるバンド演奏では、普段と違うスタイルと歌声に拍手喝采しきりで、いつにない大会をお見せできたと思います。

1 病棟准看護師 酒井 雄

年末恒例の餅つき

暮れの28日は恒例の餅つき大会です。患者さん達と一緒に16kgの餅をつき、「美味しい」と喜ばれました。各職場に鏡餅を配り、地域にも届けました。

「久しぶりに、懐かしかつば見せてもろた」という、大正生まれの患者さんの声もありました。このような行事は今後も続けたいと思った1日でした。

作業療法室 前田 真有美



感動に包まれた 皇居勤労奉仕の一こま



赤坂御苑にて皇居勤労奉仕記念撮影(一般財団法人福岡中小企業経営者協会)
／筆者は1列目右から2番目

平成最後の11月25日から5日間、皇居勤労奉仕に参加する機会を得ました。奉仕活動初日、天皇皇后両陛下にお目にかかれることになり、会場でお待ちする間の緊張感たるや…。

お会釈を賜る段になり、熊本地震で被災した病院からの参加者がいるとお聞きになった天皇陛下は、私に直接お声をかけてくださいました。「大変でしたね。病院の患者さん達はどうだったのですか?ご無事だったのですか?」と慈愛に満ちたお言葉に、私は感激のあまり返事もまともにできず、滂沱の涙が止まりませんでした。

最初はほんの好奇心から参加した勤労奉仕でしたが、国民一人ひとりを案じ、被災者に寄り添われる陛下のお姿を間近に拝見し、一生忘れられない幸福感に満ちた時間となりました。 犬飼 礼子

職場インフォメーション

第5回 精神科デイケア

自分らしい生活を送るために

精神科デイケア 主任 大宮 理絵

デイケアは、幅広い年齢層の方が利用され、多様なプログラムを通して、自分らしい生活スタイルを築いていく場所であり、そのお手伝いをしています。

スタッフは個性派ぞろい?! 新しい顔ぶ



れも加わり、充実したチームワークと一人ひとりの得意分野を生かしながら、メンバーの皆さんと一緒に、今まで以上に色々なことに挑戦します。

研

修

と

院

内

勉

強

会

院内

10月	6日	接遇向上研修
	10日	医療・介護・福祉に関する勉強会
	26日	認知症対応検討会主催勉強会
11月	6~9日	行動制限最小化委員会・個人情報保護委員会
	10, 29日	接遇向上研修
	12日	医療・介護・福祉に関する勉強会
12月	29日	医療機器の取り扱い、安全管理についての勉強会
	3, 4, 10, 11日	平成30年度第2回院内感染対策職員研修会
	7日	成年後見制度に関する研修
	18日	地域拠点型認知症疾患医療センター研修会

院外

10月	2日	日本精神科看護協会第5回支部研修会（福溝小百合）
	1, 3, 22日	平成30年度熊本県相談支援従事者現任研修（2名）
	4~5日	日本精神科医学会学術大会（2名）
	6日	益城病院地域拠点型認知症疾患医療センター研修会（10名）
	10~12日	日本精神科救急学会学術総会・代議員会（渡邊信夫）
	10, 12日	くまもと青明病院m-ECT導入に向けての研修（3名）
	13日	日本精神科看護協会熊本県支部第5回支部研修（2名）／第55回熊本県精神保健福祉協会定例研修会（8名）
	18日	平成30年度広域災害・救急医療情報システム（EMIS）入力操作研修会（2名）
	21日	JMAT研修（梅田亮一）
	22日	相談支援専門員現任研修（2名）
	23日	日看協「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修（2名）／平成30年度こころのケア研修会（2名）
	25~27日	第52回てんかん学会学術集会【学会：宮崎知博】
	26日	九州電力社員研修【講演：松永哲夫】／平成30年度精神障がい者地域移行支援研修会（2名）／熊本県障害福祉サービス等従事者基礎研修（岩谷優）／現場を変える・認知症ケア研修（坂田京子）
26~27日	平成30年度第4回精神保健指定医研修会（西尾啓）	
28日	認知症介護実践者フォローアップ研修（3名）	
29日	介護実践者研修（梅村理恵）	
11月	4日	断酒会研修（2名）
	5日	医療安全管理者研修会（3名）
	5~8日	包括的暴力防止プログラム研修（2名）
	5~9日	平成30年度第2回アルコール依存症臨床医等研修（荒牧奈菜）
	6日	日本精神科看護協会山口県支部看護代表者会議研修会（金子元子）／山都町介護支援専門員連絡協議会研修【講演：吉村裕子】（2名）
	8~9日	平成30年度日本精神科病院協会日本精神科医学会学術教育研修会（原幸輔）
	9日	長崎市老人福祉施設・栄養士協議会研修会（井上さとみ）／秋田緑ヶ丘病院【講演：犬飼邦明】／秋田県
	10日	平成30年度第34回熊本アルコール関連問題学会（2名）
	11日	こころの健康づくり講演会（伊津野智士）
	13日	ノロウイルス予防講習会（郷野優子）
	14日	熊本県精神科協会事務長会研修会（4名）／医療ガス安全講習会（村添清美）
	17日	日本精神科看護協会第6回支部研修会（福溝小百合）／栄養士会医療事業部研修会（永田沙織）
	20日	こころのケア研修会（2名）
21日	熊本県ひきこもり理解のための研修会（2名）	
22日	第133回精神保健指定医研修会（犬飼邦明）／キャラバンメイト連絡会兼ステップアップ研修会（2名）／平成30年度第133回精神保健指定医研修会（宮崎知博）	
23日	DPAT・災害医療に関する緊急シンポジウム（犬飼邦明）	
23~25日	第19回日本医療情報学術大会（3名）	
27日	福祉サービス苦情解決研修会（3名）	
28日	第55回熊本県精神科協会コ・メディカル部会研修会（6名）	
29日	職場のメンタルヘルス研修（2名）／4大原因疾患別認知症のケアとリスク研修会（小崎裕子）	
29, 30日	平成30年度「認知症に関する研修会（第25回）」（渡邊鮎子）	
12月	1日	熊本県精神科協会看護管理者研修（4名）／日精看熊本県支部研修「メンタル・ステータス・イグザミネーション」（6名）
	3日	SBIRTSの普及促進セミナー（福溝小百合）／看護補助者の活用推進のための看護管理者研修（2名）
	5日	災害時の食を考える研修会（井上さとみ）
	8日	日精看熊本県支部メンタル・ステータス・イグザミネーション研修（6名）
	11日	精神障がい者地域移行支援研修（3名）
	13日	新阿武山病院院内研究発表会（金子元子）
	15日	熊本高齢者の抑制を考える会研修会（兼瀬舞）
21日	熊本県介護職員定着支援事業全体研修会（兼瀬舞）	

※他にも院内外でさまざまな研修・勉強会等に参加しています。

職員往来

2018年9月19日～2019年1月1日

新しい職場でがんばっています。よろしくお祈りします。

- ① 趣味・特技
- ② 入職動機
- ③ ひとこと



ヨネモト トシヒロ
米本 寿弘

2018/10/22

法人事務局
施設

- ① 旅行・ジョギング
- ② 自分の経験と能力を活かせる職場で、楽しく仕事ができると思いました。
- ③ 皆さんと力を合わせて、楽しい職場作りをしていきたいと思いをします。



シマカゲ ミホ
島影 美穂

2018/10/23

法人事務局
事務

- ① 旅行・ライブ観戦
- ② 職場見学時に、対応の良さや雰囲気の魅力を感じました。
- ③ 初めての病院勤務で、日々勉強になります。頑張ります。



ウラモト トモコ
浦本 とも子

2018/11/1

橘病棟
看護師

- ① 旅行・音楽鑑賞
- ② 新しいことにチャレンジしたくて、志望しました。
- ③ 益城病院で新たにたくさんの方を学んで、業務に活かしていきたいと思いをします。



ツノダ シホ
角田 志保

2019/1/1

橘病棟
看護師

- ① 音楽、映画鑑賞（特にミュージカル映画）
- ② 子育てと仕事の両立を目指して志望しました。災害看護を学びたいです。
- ③ 1日でも早く慣れるように頑張ります。ご指導よろしくお祈りします。

リレーコラム

No.6

充実! Off Time

水泳大好き!

栄養管理科 管理栄養士 永田 沙織

運動音痴の私にとって唯一できるスポーツが水泳です。学生時代は水泳部に入部し、日が暮れるまで泳いで夏は真っ黒。水着の跡がくっきりの日々でした。今は仕事帰りにプールに行くと、近くで元気に泳ぐ学生さんの姿を見て懐かしい気持ちになります。「これだけ泳ぐ」と毎回目標を決めて泳ぎ、達成したときは、疲れもあるものですが爽快感となり、気分転換と明日への新たな活力にもなっています。



2018年10月～12月

病院等行事

10月	11日	バイキング給食
	27日	第2回大規模災害訓練
	30日	10月職員誕生会
11月	10日	患者向け被服販売
	27日	11月職員誕生会
	27日	グループホーム「ふるさと」火災避難訓練
12月	7日	夜間想定火災避難訓練
	12日	クリスマスバイキング給食
	12日	宿泊型自立訓練事業所「コスモ」火災避難訓練
	14日	クリスマス会
	17日	12月職員誕生会
	19日	みんなで取組む院内清掃活動

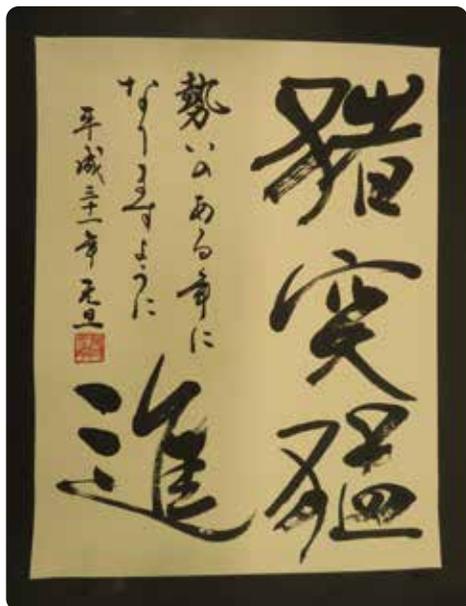
実習生受け入れ実績

- 10月 熊本総合医療リハビリテーション学院 (1名)
- 11月 崇城大学薬学部1年生早期体験学習 (2名)
- 熊本保健科学大学OT学生評価実習 (1名)
- 松橋西支援学校1年生実習 (1名)
- 12月 熊本駅前看護リハビリテーション学院 (1名)

診療実績

単位：人

区分		10月	11月	12月
外来	外来患者延人数	3,239	3,156	2,969
	(うち新規患者人数)	55	47	53
	平均外来患者人数	115.7	108.8	114.2
入院	新入院患者人数	38	18	35
	退院患者人数	31	21	33
	在院患者延人数	6,407	6,232	6,402
	平均入院患者人数	206.7	207.7	206.5
	平均在院日数(単位：日)	185.7	319.6	188.3



書 坂倉 蓉飛

編集後記

亥年の幕開けです。新病院完成により猪突猛進したいとの強い思いもありますが、日常は穏やかな日々を送れることを切に願っています。益城町との合意に伴い、道路拡張工事によって現在地の駐車場の一部が県道になり、あたりの風景も変化します。患者さんやご家族が心配されないよう、説明やお知らせなどを定期的に行っています。また、新病院への移転が事故なくスムーズに行われるよう、全職員で取り組む日々です。変わらぬご支援をお願いいたします。(法人理事 田中 洋子)



MASHIKI HOSPITAL

社会医療法人ましき会

益城病院

精神科・心療内科・小児科・歯科

〒861-2233

熊本県上益城郡益城町惣領1530

096-286-3611

外来お電話受付時間(月曜～金曜)

午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00



熊本市電線管電停より車で約10分、近交バス山崎中惣領バス停
阿蘇熊本空港より車で約15分
阿蘇熊本空港より車で約40分
九州旅客鉄道・益城郡本空港より車で約5分

付属施設

- 熊本県認知症疾患医療センター
- 高齢者グループホーム「ふるさと」
- 地域活動支援センター「アントニオ」
- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援センター
- 就労継続支援B型事業所「ましきの風」
パン工房まリモ、清掃・洗濯作業「クリーンサム」
軽作業 あひるのしっぽ
- 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
- 育児室「あんふあん」
- 犬飼記念美術館
「こころと心のミュージアム」

関連施設

- ひろやすクリニック 内科・消化器科・循環器科
熊本県上益城郡益城町惣領1544番地3
TEL 096-286-3636
- 特別養護老人ホーム 花へんろ
熊本県上益城郡益城町惣領1670
TEL 096-287-8706
- 養護老人ホームAKAI花へんろ
熊本県上益城郡益城町赤井1800
TEL 096-286-2075



益城病院

検索

表紙タイトル：Reborn(リボーン) 新しく生まれ変わること。 表紙写真：建築中の新病院 (2018年12月25日撮影)

編集：堀地久美子 発行：社会医療法人ましき会 益城病院 広報委員会

発行日：2019年1月31日